

## 「ブレトンウッズ体制」

過去の経済体制の変遷の中で金融市場に強い影響を与えたと言われているものに「ブレトンウッズ体制」があります。

### 1. 「ブレトンウッズ体制」とは

ブレトンウッズ体制とは、第2次世界大戦中の1944年から戦後の1971年まで続いた世界通貨の体制です。1944年7月にアメリカのニューハンプシャー州のブレトンウッズで連合国通貨金融会議が開かれ、ブレトンウッズ協定が締結されました。この協定によって成立した体制がブレトンウッズ体制です。これにより、世界各国の通貨の為替レートが、アメリカの通貨である「米ドル」を基軸通貨として決定されました。米ドルは、金との交換が保証され、実質的に米ドルを媒介とした金本位制がブレトンウッズ体制です。ブレトンウッズ体制により、各国の為替レートは一定となり、「固定為替相場制」をとることになりました。ブレトンウッズ体制の目的は、「世界経済不安によって、二度と世界大戦を引き起こさない」ことと「第二次世界大戦後の世界経済を安定させる」ことです。

交換内容	交換レート
金とドル	金1オンス = 35ドル 公定価格
米ドルと円	1米ドル = 360円±1%以内

### 2. 「ブレトンウッズ体制」の功績

世界の為替レートが、安定することにより貿易が活発化し、圧倒的なスピードで経済成長する国が出てきました。その例が日本です。貿易が活発化した結果、世界経済は密接な繋がりを持つようになりました。

### 3. ブレトンウッズ体制の限界

世界中で貿易の取引額が増大していき、さらに西側陣営各国のインフレが進んだこと、1960年代にベトナム戦争などでアメリカ経済が深刻な打撃を受けドル危機が進行したことなどにより、アメリカ1国の金の保有量、生産量では世界のドルと金を交換することができなくなってしまいました。この結果、アメリカのニクソン大統領は、1971年ドルと金の交換を停止し、固定相場制を維持する根拠がなくなりました。これ以降、各国は自国の通貨とドルの固定相場を解除して、変動相場制へと移行していきます。これが、現代の外国為替相場です。

## 閑話ひとつ

- ▶「今は山中 今は浜 今は鉄橋渡るぞと 思う間も無く トンネルの 闇をって広野原（ひろのはら）…」これは、唱歌『汽車』の歌詞です。この歌の歌碑が、常磐線広野駅に設置されていることを知っていますか。広野町のホームページには、『鉄道唱歌』を作詞した愛媛県宇和島出身の国文学者大和田健樹先生が東北地方を旅行されたおりに、JR常磐線のいわき市久之浜から広野町間の景観を唱われたものと当町では語り継がれています」と紹介されています（別の説もあります）。
- ▶また、広野町には他に童謡「とんぼのめがね」の歌碑もあります。この歌は、広野町で開業医をされていた額賀誠志（本名：誠）先生が作詞したものです。2曲とも小さい頃よく歌った曲です。
- ▶今、福島は、古関裕而先生のNHKテレビドラマ「エール」の話題で持ちきりですが、調べてみると他にも福島県にゆかりのある歌などがあることに気づかされるのではないのでしょうか。是非、コロナで外出を制限されているこの機会に地元に関係のあるものを探してみたいかと思いますが、新たな発見があるかもしれません！

(YN)